

高等学校芸術科音楽における 一人一人の表現力をはぐくむ器楽指導の工夫

～達成感を得ながら活動できるテキストと評価シートを活用して～

音楽班 川上 寛子（高等学校教諭）

主題設定の理由

生徒の
実態

- ◆生徒の表現技能の個人差が大きい
- ◆人前で表現することへの抵抗感・苦手意識
- ◆活動をあきらめてしまう傾向

教師の
思い

- ◆段階的な課題で対応できないか
- ◆表現する経験を繰り返して積ませたい
- ◆取り組みやすく喜びを感じられる活動を

一人一人の表現力を
はぐくみたい・・・

目指す生徒の姿

一人一人の生徒がのびのびと
意図をもって器楽表現できる

課題解決に向けて

手
だ
て

段階的な課題を設定した
テキスト

併せて活用してはどうか

課題把握・
多面的な評価のできる
評価シート

実践概要

テキスト

ギターについての**基礎知識（書き込み形式）**と、9曲の練習曲を段階的に構成したテキスト。メロディ奏の他、コード奏、ベース奏、アンサンブルなど**様々な奏法**へ取り組めるもの。五線譜と**TAB譜**を用いて記載。

楽器の
音色や
奏法の
特徴を
生かす

～テキストを用いて～

音楽を形作る要素を
知覚・感受する

～聴き合い活動～

親しむ

工夫する

深める

評価シート

一つの課題に**3～5個の評価欄**を設け、自己評価、相互評価など多面的な評価を記入するシート。**音色、強弱、速度、旋律、リズム、ハーモニー、拍子**といった**音楽を形づくっている要素を観点（表現ポイント）**として示し、その中から選んだ項目について意識して演奏したり聴いたりし、表現の工夫に生かせるようにする。

	11月 9日	11月 16日	11月 16日	11月 16日
ベース難関度1	自己評価欄	表現ポイント	表現ポイント	表現ポイント
ベートーヴェンの名曲にベースを加えよう!	「この曲」	「この曲」	「この曲」	「この曲」
自分なりに聴き合おう!	「この曲」	「この曲」	「この曲」	「この曲」
自分なりに聴き合おう!	「この曲」	「この曲」	「この曲」	「この曲」

こんな風に表現したい・・・

1音、曲の雰囲気に合わせて、強弱をつけて演奏しよう。
リズムをとりながら演奏しよう。
音が、楽器の音色や強弱もわかるように演奏しよう。

表現したいポイント（生徒の記入例）

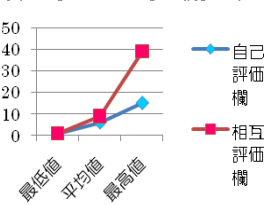
聴き合う活動で
お互いを
評価しよう

達成感を得ながら
次の課題を
把握・・・

評価シート（生徒の記入例）

研究の成果と課題

表1：評価シート 評価欄記入数



成果

- ◇テキストは曲数や課題が多くなってしまったが、生徒は各々のレベルや関心に合わせて表現活動によく取り組めた。
- ◇シートを用いた聴き合う活動により、人前で表現することへの抵抗感が減少した。また、発表の際には全員が「表現したいポイント」（実践概要参照）を記述し、演奏を発表できた。

課題

- ◆評価シートは、記入欄の大きさや配置など改善の余地がある。テキストは、課題の厳選やより見やすく取り組みやすい記載と説明の仕方に課題がある。
- ◆授業にあたって、個々の深まりを全体へ還元させる場面をつくることで、よりよい影響が期待できると思われる。
- ◆個々への支援によりほとんどの生徒がTAB譜を読むことができるようになり、事前には生徒の9割が「楽譜が読めない」「苦手」という状況だったが、事後には多くの生徒から「楽譜は苦手だがTAB譜は読める」「他の楽譜も読んでみたい」などの回答が得られた。今後さらに読譜力を育み、表現につなげていくことが課題である。